



## ハノーファーが 50 万人以上の都市で国内 2 番目に 自転車にやさしい都市に選ばれる！

ADAC (日本の JAF のような団体) は 2018 年、自転車利用者 17 万人へのアンケートで 683 の自治体を評価した。ハノーファー (人口 53 万人) は、国内 50 万人以上の都市で 2 番目に「自転車にやさしい都市」だと発表された。1 位はブレーメンで僅差だった。

この調査は、連邦交通省が 2020 年 国家自転車交通計画実現のために依頼したもの。自転車利用者へのアンケートであり、主観的な部分が多い。回答者の 74% が日常的に自転車を利用しており、75% は車も所有している。81% の人が自転車専用道路での走行を希望しており、安全について危惧する声が多く寄せられた。

街中の自転車道は、自動車道と歩道の間にある場合もあれば、歩道の道路側に設けられていることもある。自転車道に青や赤で色をつけ、強調することで安全を確保しており、自転車専用の信号もある。自転車道が整備されればスピードを出すこともでき、通勤にも利用しやすい。

主な道路には自転車の台数カウントする装置が設置されている。「現時刻」「今日この場所を通った自転車数」「今年この場所を通った自転車数」が表示



自転車が通ると自動的にカウントする装置

されていて、例えばうちの近所にある装置では 7 月 1 日昼頃、「その日に 1181 台」「今年すでに 46 万台」となっていた。自転車の利用について意識的になる効果がある。

また前輪とハンドルの間に大きな箱がついている自転車は物を運ぶのに便利で、車の代わりになるとして、そのような自転車普及のため、無料で貸し出している団体もある。もちろん電気自転車も増えてきており、年配者だけでなく若い人も利用しており、普通の自転車ではしんどい 10km 程度の通勤に利用する人もいる。

街中心部の一部は道路全体が自転車優先道路となっており、自転車は堂々と真ん中を走ることができる。車は自転車に配慮しなければならない。自転車を増やす一方、自動車を走りにくくして締め出そうという考えだ。

ハノーファーの路面電車には、無料で自転車を持ち込むことができる。平日の通勤通学時 (5 時から 8 時半まで) と午後の帰宅時 (5 時から 19 時) 以外は持ち込み、週末は終日大丈夫である。

マイカーの代替として、自転車、路面電車・バス、カーシェアリングの組合せを推進しており、路面電車の定期を持っているとカーシェアリングやタクシーが安く使えるサービスもある。

ハノーファーはアンケートでは第二位という結果だったが、実は評価自体はあまり高くない。2018 年にハノーファー市は、2025 年までに市内の移動の 25% を自転車にするという目標を立てているが、ここ数年 19% から上がっておらず、模索している。

しかし個人的には、自転車道は整備されているし、快適だと思う。夏場は多くの人がさっそうと自転車で走っており、特に川沿いや森など自然の中のコースは人気である。私も仕事や買い物で日常的に使うほか (勤務先の大学図書館まで片道 2km)、週末に近場の湖に自転車で出かけて、散策したりする。スポーツ嫌いの私には自転車が唯一の運動なので、少々雨風や日差しにもめげず頑張ってペダルを踏んでいる。

ごみかんドイツ特派員 田口 理穂

### AKIRA の 成長記録

6 年生も 7 月 3 日で終わりということで、6 月末にオランダ国境そばにあるボルクム島 (片道 300 キロ) に 4 泊 5 日で修学旅行に行きました。ユースホステルの部屋決めで事前にグループ分けしましたが、仲間はずれになった子がいて大揉め。くじ引きにしたり、喧嘩したり泣いたりした末、話し合いで解決したようです。

ユースホステルでの生活は充実していて、ディスコ部屋もあり、明の学校の 3 クラス 90 人は一晩貸切りとし、夜 10 時まで騒いだそうです。明は「踊るというより、みんな飛



び跳ねてたけど。早く帰った子もいた」と。先生は参加しなかったそうです。

島では、レンタル自転車で海に出かけ、泳いだり、海岸沿いをトレッキングしたり。また案内付きで市内観光したり、焚き火やボール遊びもしました。小遣いは 15 ユーロ (2000 円弱) までで、明はお菓子を買って、島の風景がプリントされた磁石をおみやげに買ってきました。

「クラスの絆を深める旅にする」と先生は言っていたのですが、その言葉通り充実した体験になったようです。旅行後は感想文を書くこともなく、夏休みに突入。休みはリラックスするのが大事なので、夏休みの宿題はまったくありません。